病気療養児の学習活動を支援する ICTを活用した特別支援教育について

県立仁戸名特別支援学校教諭 きのうち 木内 まなぶ 学

1 はじめに

本校は、病気療養児の学習活動を支援する特別支援学校である。入院生が大半を占めるという本校の特性上、通学する児童生徒と入院生の共同活動が円滑に進むことを意図し、全校行事などにおいて、従前からWeb会議システムを活用した同時双方向型で行う教育（以下、遠隔教育とする）を進めてきた。

本稿では、文部科学省からの遠隔教育に関する通知を基に、本校の中学部で行っているICTを活用した特別支援教育に関わる取組の一端を紹介する。

2 遠隔教育に関する通知について

文部科学省から2018年9月14日に『遠隔教育の推進に向けた施策方針』（以下、施策とする）が出された。施策の内容は、学校現場の抱える課題や一人一人の学習ニーズに応じて、遠隔教育が学びの質を大きく向上させる可能性があることを示唆するものである。

3 自宅と学校を繋いだ授業について

本校には、治療や体調不良などの理由から毎日の登校は難しくとも、学習したいと強く願う生徒が一定数いる。そのニーズに応じ、教育の機会を確保するため、施策に基づき自宅と学校をWeb会議システムで繋いだ授業（以下、遠隔授業とする）に取り組んでいる。

準備段階では、生徒のニーズや体調面の把握に加え、保護者とは使用機器の準備やメンテナンスに関わる説明を丁寧に行った。また、教師側のコマ割りなどについても細かく確認しながら、実施に向けた準備を進めた。

4 遠隔授業での工夫

(1)撮影用のカメラ

学校側のカメラはパソコンに付属するタイプではなく、単体のビデオカメラを接続して使用している。理由は、ビデオカメラの画質やピント、明暗調節などの機能を生かして、より鮮明な画像で生徒宅に授業を配信することができるためである。このことにより、授業中に見づらさを感じているような場合でも、すぐに微調整して対応することが可能となった。

(2)Web会議システムとクラウドサービス

授業ではインターネット上の共有ファイルを使用しており、ファイルに生徒と教師双方から同時にアクセスし、編集をかけることができる。この機能により、クラウド上にアップロードした学習プリントを介し、一つの画面上で授業者が問題を出し生徒が答えるといったことが可視化された。その結果、ノートテイクなどで生徒の手元が見えないといった状況が減り、活動の見える化が促進された。

5 おわりに

遠隔授業は、体調などに応じ登下校に関わる負担を減らすことができるため、病気療養児の学びを支える上で有効な取組といえる。

実施に当たっては、保護者の理解や協力体制の構築が欠かせない。併せて、授業方法や評価の在り方の更なる検討に加え、機器や授業方法について様々な組み合わせを試すなど、生徒個々のニーズに応じた遠隔授業ならではの工夫が今後も求められる。